連載

キャッシュレス時報
CASHLESS JIHO

長内　智
㈱大和総研
金融調査部
主任研究員

第10回　キャッシュレス決済の身近な活用例

新しい生活様式とキャッシュレス

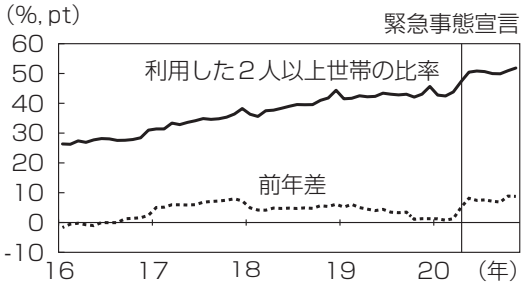
●ネットショッピング利用率が50%超へ

新型コロナウイルスの感染拡大により，消費者の生活様式が変化し，キャッシュレス決済が一層身近なものになっています。

例えば，昨年の緊急事態宣言に伴う外出自粛をきっかけに，消費者はネットショッピングの利用を増やしました。そこでは，主にクレジットカード決済が使われます。

「家計消費状況調査」によると，インターネットを通じて買い物をした世帯の割合は，緊急事態宣言が発出された2020年４月に大幅に上昇し，過去最高を更新しました。さらに，翌５月も上昇して，統計開始以来初めて50％超（50.5％）となりました。その後も，おおむね50％程度の水準を維持しており，ネットショッピングが定着しつつある様子が読み取れます（**図表**参照）。

【図表】ネットショッピングの利用動向



（出所）総務省統計局「家計消費状況調査」より大和総研作成

●「巣ごもり」娯楽サービスの利用増加

新型コロナウイルス前より自宅で過ごす時間が増えたことに伴い，映画やドラマ，アニメなどを定額で視聴できる有料動画配信サービスや，オンラインゲームといった「巣ごもり」娯楽サービスが急拡大しました。

ゲーム分野では，任天堂の「あつまれ どうぶつの森」（あつ森）というゲームが世界的な大ヒットを記録しました。同ゲームはオンライン機能で友人や家族と一緒に遊べることが大きな特徴であり，コロナ禍の新たな交流手段として多くのユーザーから高く評価されたのです。

これら娯楽サービスの利用料は，クレジットカードなどのキャッシュレス決済で支払うこととなります。

●街で見かけるようになった料理配達員

外食産業が新型コロナウイルスの影響で苦境に陥る中，料理宅配サービスの利用が増加しています。消費者にとっては，外出しなくても自宅で簡単に好きな料理を食べられるというメリットがあり，飲食店側は，店外での売上を増やすという効果が期待できます。

新型コロナウイルス前は宅配サービスに対応している飲食店が限られていましたが，コロナ禍の需要拡大に伴い対応店舗が急増しました。最近は，街で配達員を見かける機会も増え，私たちにとって身近なサービスになりつつあります。支払方法は，クレジットカード決済が一般的ですが，他のオンライン決済も利用できます。

非接触型決済という新たな潮流

●感染予防のための脱現金化

人や現金との接触を避けて新型コロナウイルスの感染を予防しようという意識の高まりが，キャッシュレス決済の追い風になっています。

国際的に「きれい好き」で衛生意識が高いといわれる日本では，諸外国に比べてきれいな紙幣が多く，このことは日本人の現金志向の一因となっていました。しかし，コロナ禍で，人の手を介して流通する現金がウイルスの感染媒体になりうると指摘される中，日本人の衛生意識の高さが店舗での「現金非接触」やキャッシュレス化を促す要因となったのです。

例えば，現金を手渡しでなくトレイに置くようになり，消費者の脱現金化の動きが広がる中でキャッシュレス決済の利用件数も増加しています。また，ウイルスの感染リスクを抑えるという点から，店舗のキャッシュレス化に取り組む企業も増えているようです。

●クレカの「タッチ決済」に普及の兆し

店舗でのクレジットカード決済において，支払時に店員にカードを手渡さない「タッチ決済」が普及の兆しを見せ始めており，今後の普及動向が注目されます。

タッチ決済とは，読み取り機にICカードやスマートフォンをかざすだけで決済できる方式のことであり，「コンタクトレス（非接触型）決済」と呼ばれることもあります。日本では，すでに交通・流通系の電子マネーなどでおなじみの決済方法です。

海外では，日常的な小額決済でもクレジットカードやデビットカードを利用することが多く，近年，決済速度の速いタッチ決済へのシフトが進んできました。日本でも，コロナ禍の非接触という潮流の中でタッチ決済対応のカードや対応店舗数が増えています。今後，クレジットカードのタッチ決済を利用する場面も徐々に増えていくと見込まれます。

お賽銭・投げ銭・寄附でも活用拡大

●京都の有名寺院がQR決済を導入

2020年10月，京都の真宗大谷派の本山である東本願寺が，お賽銭を納める手段としてQRコード決済を新たに導入しました。これは，新型コロナウイルスの感染予防対策や参拝者の利便性向上を目的としています。

近年，お賽銭のキャッシュレス化の動きが少しずつ広がっていますが，京都市内の主要な本山寺院がキャッシュレス決済を導入するのは，これが初めてのことです。

お賽銭に関しては，個人情報流出への懸念から，キャッシュレス化に否定的な意見もあります。ただ，ウイルスの感染予防という追い風もあり，今後普及が進む可能性もあるでしょう。

●スポーツ界にも広がるオンライン投げ銭

コロナ禍では，ライブ活動が難しくなった音楽アーティスト等を支援するためにオンライン投げ銭を活用する事例が話題となりました。

オンライン投げ銭とは，簡単にいえば，ネット・コンテンツの配信者に対して，視聴者がその視聴対価としてお金を送金することです。以前から存在する代表的な投げ銭機能としては，動画配信サイト「YouTube」の「スパチャ（スーパーチャット）」が挙げられます。

2020年は，サッカーＪリーグやプロ野球，プロバスケットボールのチームがオンライン投げ銭を新たに導入するなど，幅広い分野で活用されることとなりました。

●ふるさと納税を通じた地域支援

新型コロナウイルスの影響を受けている地域の生産者や事業者を支援する手段として，「ふるさと納税」が再注目されています。

これは2008年に創設された制度で決して目新しいものではありませんが，クレジットカード支払等により，生まれ故郷や応援したい地方自治体へ簡単に寄附することができるため，コロナ禍支援の一環として活用する人が増えているようです。